

IIIIII ニュース IIIIII

＜第 27 回学術講演会（JASMAC-27）開催報告＞

栗林 一彦

本年度の学術講演会は、2013 年 11 月 27 日（水）～29 日（金）の 3 日間の日程で、東京の芝浦工業大学豊洲キャンパスで開催されました。今年度は学会創立 30 周年の節目に当たっており、150 名を超える非常に多くのご参加を頂きました。30 周年を記念し、これまでの学会誌を電子化した CD-ROM の販売をいたしました。前回の九州での開催に引き続き、今回の講演会でも一般講演、ポスター講演に加え、市民向けの講演会（学生一般対象、児童対象）を企画いたしました。また、学会の企業展示の募集に対して JAXA 殿と JAMSS 殿より出展を頂きました。

初日には、レビテーションに関連した研究ならびに結晶成長に関連した研究の一般講演が行われました。また、その日の夕方に市民向け講演会（学生一般対象）として、下記の題目で微小重力環境および宇宙環境利用に関する講演がありました。

「微小重力環境と材料科学」正木匡彦（芝浦工大）

「「きぼう」実験棟から生まれた新しい医療研究の成果」
長谷川義幸（JAXA）

JAXA の長谷川理事が会場となりました芝浦工大の OB ということもあり、芝浦工大の多数の学生さんにご参加いただきました。

二日目は、流体に関連した研究ならびに燃焼に関連した研究の一般講演が行われました。また、企画講演として、JAXA の依田真一先生より「宇宙環境利用のこれまでとこれから」と題して宇宙環境利用の経緯と今後の展

望についてお話いただきました。同日の「毛利ポスターセッション」では、毎回ご参加頂いております毛利宇宙飛行士に加え、今回は古川聡宇宙飛行士にも飛び入りでご参加いただき、ポスター発表の採点に加わっていただきました。また、「航空機による学生無重力実験コンテスト」の審査も同時に行われました。

毛利ポスターセッションと並行して、会場の近隣の小学生を対象とした一般市民向けの宇宙教室が開催され、多数のご参加を頂きました。JAXA の夏井坂誠主任開発員と勝田真登開発員により、宇宙ステーションをはじめとした宇宙環境利用が非常にわかりやすく解説され、参加した児童たちがその映像に見入っていた様子が印象的でした。一般の方々のご参加をさらに増やしていくための方策を考える必要はありますが、将来の微小重力科学の発展へ向けてこのような活動を今後も継続的に進めるべきと思います。二日目の夜は、芝浦工大生協のカフェテリアにて懇親会を開催いたしました。講演会と同様に多数の方々にご参加頂き、会場や料理にご好評頂きましたことをうれしく思います。

最終日には、材料・実験装置に関連した研究ならびに基礎科学に関連した研究の一般講演が行われました。また、講演会全体の最後に総会が開催され、JASMA 誌の投稿規定の見直しに関する議論や今後のきぼう利用の募集状況の報告等が行われ、多くの参加者から非常に活発な議論が行われました。

最後になりますが、今回の講演会の開催に当たり、プログラム編成委員の方々や JASMA 事務局の田尻麻奈様（（有）ワーズ）に多大なるご協力を頂きましたことを御礼申し上げます。

芝浦工業大学 工学部 材料工学科
〒135-8548 東京都江東区豊洲 3-7-5
(e-mail: kuribaya@sic.shibaura-it.ac.jp)



参加者集合写真